

- 問1 高知県における、なすなどの野菜の生産の特色を説明した文として最も適切なものを、統計資料から得られる「2月から5月に東京都中央卸売市場への入荷が集中している」という事実に基づき選択しなさい。（2024年 埼玉県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 冬でも温暖な気候をいかし、ビニールハウスを使って他の地域よりも早く栽培する工夫をしている。 | 2. 高冷地の涼しい気候をいかし、夏から秋にかけての出荷時期を遅らせる工夫をしている。 | 3. 大消費地に近い立地をいかし、輸送費を抑えて新鮮な野菜を毎日出荷する工夫をしている。 | 4. 広大な土地をいかし、大型機械を用いて少ない労働力で大量の作物を生産する工夫をしている。 |
|--|---|--|--|
- 問2 愛媛県南西部の坂下津から戎ヶ鼻にかけてのように、リアス海岸が広がる地域では海岸のすぐ近くまで山が迫っています。このような地形的制約がある中で、この地域の斜面で広く行われている農業の特色について述べたものはどれですか。（2020年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 土砂が堆積してきた平坦な土地を利用して、大規模な機械化による小麦の栽培が行われている。 | 2. 冷涼な気候を活かし、山の斜面を牧草地として利用した乳牛の放牧が行われている。 | 3. 日当たりの良い斜面を段々畑として整備し、みかんなどのかんきつ類の栽培が行われている。 | 4. 海岸沿いに広がる砂丘を利用して、スプリングラーを用いたらっきょうやスイカの栽培が行われている。 |
|--|---|---|--|
- 問3 都道府県の統計において、面積が約1,877km²という全国最小の規模であり、果実の産出額が約8億円、製造品出荷額が2兆4,000億円を超えるといった特徴を持つ県について、その地理的説明として最も適切なものを選びなさい。（2020年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 中部地方に位置し、盆地の気候を利用した果実栽培が盛んで、産出額が全国トップクラスである。 | 2. 関東地方に位置し、広大な平野を活用した農業が盛んで、面積は約6,000km ² に達する。 | 3. 四国地方に位置し、県庁所在地である高松市を中心に都市機能や産業が集積している。 | 4. 近畿地方に位置し、県土の約6分の1を占める大きな湖を擁し、面積は約4,000km ² である。 |
|---|---|--|---|
- 問4 山口県的美祢市付近には、日本を代表するカルスト地形である秋吉台が広がっている。このような独特の景観が形成された理由と、その後の利用について述べた文として適切なものはどれか。（2024年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 海底が急激に隆起してきた砂岩の地層が波の浸食を受けて形成され、現在は国立公園として観光利用のみに制限されている。 | 2. 激しい火山活動によって噴出した溶岩が平坦に固まって形成され、現在はその広大な土地を活かして牧畜が行われている。 | 3. 河川が運んできた土砂が長い年月をかけて積もって形成され、現在はその水はけの良さを活かした果樹園が広がっている。 | 4. サンゴ礁などが堆積してきた石灰岩の台地が雨水で浸食されて形成され、現在はセメントの原料として石灰石の採掘も行われている。 |
|---|--|--|---|
- 問5 島根県において、2007年や2013年に観光客総数が大きく跳ね上がり、年間3000万人を超えるピークを記録しました。このような観光客の急増をもたらした歴史的・文化的な背景として最も適切なものはどれですか。（2026年 島根県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 県内居住者の移動を促進するために、県主導で大規模なレジャー施設が次々と建設されたこと | 2. 大規模な工業団地が沿岸部に整備され、県外からのビジネス客が急増したこと | 3. 石見銀山の世界遺産登録や、出雲大社での遷宮が行われたこと | 4. 県内全域で高速道路が一度に全線開通し、物流の拠点となったこと |
|---|--|---------------------------------|-----------------------------------|
- 問6 中国地方に位置する鳥取県は、4つの県と境界を接しています。これらの隣接県に関する統計において、面積が約7,114平方キロメートル、自家用乗用車の保有台数が100世帯あたり136.0台と示される県があります。この県には、他の隣接県である島根県（石見銀山）や兵庫県（姫路城）、広島県（厳島神社・原爆ドーム）とは異なり、現在世界遺産が登録されていません。この県はどこですか。（2024年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 広島県 | 2. 岡山県 | 3. 島根県 | 4. 兵庫県 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問7 1985年から2015年にかけての四国地方と他地域間の交通手段の変化をまとめた統計において、かつて主要な移動手段であった船舶の利用割合が激減し、代わって自動車の利用が急増して全体の過半数を占めるようになりました。このような交通の変化をもたらした最大の要因として、最も適切なものはどれですか。（2020年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 四国全域を網羅する新幹線網が完成したことにより、鉄道と自動車の連携による移動が普及したこと | 2. 瀬戸大橋をはじめとする本州四国連絡橋が相次いで開通し、本州との間の陸上交通網が整備されたこと | 3. 格安航空会社（LCC）の参入によって航空機の利用料金が下がり、船舶から航空機への転換が進んだこと | 4. 環境保護の観点から瀬戸内海での大型船舶の航行が厳しく制限され、物流の主役がトラックへ移行したこと |
|--|---|---|---|
- 問8 高知県では、冬から春にかけての出荷時期において、東京市場での卸売価格が高い水準にあることを利用した農業が行われています。このような、温暖な気候や施設を利用して作物の成長を早め、他の産地よりも時期をずらして出荷する栽培方法の名称はどれですか。（2020年 奈良県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 促成栽培 | 2. 抑制栽培 | 3. 有機農業 | 4. 近郊農業 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問9 瀬戸内地方において、一年を通じて降水量が少なく、温暖な気候になる理由として、地形の観点から説明したものとして正しいものはどれですか。（2021年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 日本アルプスのような高い山脈が冷たい北風を完全に遮断し、南からの暖流の影響のみを受けるため。 | 2. 北の中国山地と南の四国山地に挟まれており、湿った季節風がこれらの山地で遮られるため。 | 3. 周囲に高い山地が全く存在せず、乾燥した大陸の空気が直接流れ込み続けるため。 | 4. 広大な平野が広がっているため、上昇気流が発生しにくく、雲が発達する要因が乏しいため。 |
|---|---|--|---|
- 問10 本州四国連絡橋の整備が、四国地方の社会や産業に与えた影響を説明した文として、最も適切なものを選択してください。（2024年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 自動車や鉄道による本州との往来が容易になり、農産物の出荷や観光客の誘致といった経済的な結びつきが強まった。 | 2. 高速道路網の整備によって、四国地方から本州へ向かう農産物の輸送コストが増大し、四国農業は衰退した。 | 3. 本州からの生活物資の流入が完全に停止したため、四国地方における自給自足の体制が確立された。 | 4. 瀬戸内海の海上交通がすべて廃止されたことにより、離島に住む人々の生活利便性が著しく低下した。 |
|--|--|--|---|
- 問11 高知県では、冬から春の時期に出荷量を増やすために、温暖な気候やビニールハウスを活用してなすの成長を早める工夫をしています。このように、自然条件や施設を利用して作物の出荷時期を本来の時期よりも早める農業形態を何と呼びますか。（2025年 三重県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 近郊農業 | 2. 促成栽培 | 3. 適地適作 | 4. 抑制栽培 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問12 高知県の平野部などで盛んに行われている、ビニールハウスなどの施設を利用して作物の生育期間を短縮し、本来の収穫期よりも早い時期に出荷する栽培方法を何というか。（2025年 宮城県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|--------|---------|
| 1. 近郊農業 | 2. 抑制栽培 | 3. 二毛作 | 4. 促成栽培 |
|---------|---------|--------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 冬でも温暖な気候をいかし、ビニールハウスを使って他の地域よりも早く栽培する工夫をしている。	高知県で行われている促成栽培の背景には、冬の気温が高いという自然条件があります。ビニールハウスを用いて内部の温度を保つことで、市場での需要が高い冬から春にかけての出荷を実現しています。これに対し、夏から秋に出荷を遅らせる方法は「抑制栽培」と呼ばれ、主に長野県などの冷涼な地域で行われています。
問2	答え 3 日当たりの良い斜面を段々畑として整備し、みかんなどのかんきつ類の栽培が行われている。	リアス海岸付近は平地が非常に少ないため、人々は山が海に落ち込む急斜面を切り拓いて段々畑を作り、土地を有効活用してきました。温暖な気候に加え、海からの反射光や水はけの良さが果樹栽培に適しているため、みかんを中心としたかんきつ類の栽培（果樹園）が盛んです。地形図においても、海岸線から山側にかけて果樹園の地図記号が密集している様子が見て取れます。
問3	答え 3 四国地方に位置し、県庁所在地である高松市を中心に都市機能や産業が集積している。	面積が約1,877km ² で最小という統計は香川県を示す決定的な指標です。香川県は四国の北東部に位置し、対岸の岡山県と瀬戸大橋で結ばれるなど、交通の要衝として高松市に多くの機能が集中しています。選択肢にある面積4,000km ² 級の滋賀県や、果実産出が盛んな山梨県、面積約6,000km ² の茨城県とは、統計数値の規模が大きく異なります。
問4	答え 4 サンゴ礁などが堆積してできた石灰岩の台地が雨水で浸食されて形成され、現在はセメントの原料として石灰石の採掘も行われている。	秋吉台のようなカルスト地形は、遠い昔のサンゴ礁などが石灰岩となり、それが地殻変動で陸地になったあと、二酸化炭素を含んだ雨水などによって溶かされることで作られました。この石灰岩は純度が高いため、建築材料や化学製品の原料となるセメントの重要な資源として、周辺では大規模な採掘事業が行われています。
問5	答え 3 石見銀山の世界遺産登録や、出雲大社での遷宮が行われたこと	島根県の観光客数は、特定の歴史的・文化的イベントに大きく影響される傾向があります。2007年には「石見銀山遺跡とその文化的景観」が世界遺産に登録され、2013年には出雲大社で約60年ぶりとなる本殿の修造などを行う「平成の大遷宮」が完了しました。これらの出来事はメディアでも大きく取り上げられ、全国から観光客を呼び寄せる強力な要因となりました。
問6	答え 2 岡山県	鳥取県は、東側に兵庫県、南側に岡山県と広島県、西側に島根県の計4県と隣接しています。これらの県のうち、兵庫県には姫路城、島根県には石見銀山遺跡とその文化的景観、広島県には厳島神社および広島平和記念碑（原爆ドーム）という世界遺産が存在します。面積が約7,114平方キロメートルに該当する岡山県は、これら鳥取県の隣接県の中で唯一、世界遺産が登録されていない県となります。
問7	答え 2 瀬戸大橋をはじめとする本州四国連絡橋が相次いで開通し、本州との間の陸上交通網が整備されたこと	1988年の瀬戸大橋開通を皮切りに、神戸・鳴門ルート、尾道・今治ルート（しまなみ海道）といった本州四国連絡橋が次々と整備されました。これにより、それまで船舶に頼っていた本州への移動が、自家用車や高速バス、トラックなどの自動車中心へと劇的に変化しました。この変化は「陸続き」になったことによる利便性の向上を象徴しています。
問8	答え 1 促成栽培	暖かい気候やビニールハウスなどを利用し、作物の生育を早めて出荷時期を前倒しする方法を促成栽培と呼びます。高知県ではこの手法を用いて、なすなどの野菜を冬から春の卸売価格が高い時期に出荷しています。これに対し、冷涼な気候を利用して出荷時期を遅らせる方法は抑制栽培と呼ばれ、長野県の高原野菜などがその代表例です。
問9	答え 2 北の中国山地と南の四国山地に挟まれており、湿った季節風がこれらの山地で遮られるため。	日本の気候は季節風の影響を大きく受けますが、瀬戸内地方は二つの山地に囲まれた盆地のような地理的条件にあります。夏の南東の季節風は四国山地に、冬の北西の季節風は中国山地にぶつかって雨や雪を降らせるため、それらを越えてくる空気は乾燥しており、瀬戸内には雨が少なくなります。
問10	答え 1 自動車や鉄道による本州との往来が容易になり、農産物の出荷や観光客の誘致といった経済的な結びつきが強まった。	本州四国連絡橋の完成により、以前はフェリーに頼っていた本州への移動時間が大幅に短縮され、天候による欠航の影響も少なくなりました。これにより、四国産の野菜などの農産物を新鮮な状態で本州の消費地に届けることが可能になり、観光客の往来も活発化しました。一方で、地方の購買力が大都市に流れる「ストロー現象」などの新たな課題も発生しています。
問11	答え 2 促成栽培	高知県で行われているなすの栽培のように、温暖な気候や温室を利用して収穫時期を早める方法は「促成栽培」と呼ばれます。これにより、他の産地との競合を避け、価格が高い時期に出荷することが可能になります。一方、高冷地の涼しい気候を利用して出荷時期を遅らせる方法は「抑制栽培」と呼ばれ、長野県のキャベツやレタスなどがその代表例です。
問12	答え 4 促成栽培	温暖な気候を活かし、ビニールハウス等で温度を管理して出荷時期を早める方法です。高知平野のナスやピーマン、宮崎平野のキュウリなどが代表例です。これに対し、高冷地の涼しい気候を利用して出荷時期を遅らせる方法は抑制栽培と呼ばれます。